

慶應義塾大が4月に総合政策学部・環境情報学部、12月に経済学部の2027年度入試の変更点を公表した。以下、公表内容の詳細をまとめた。

① 経済学部の入試変更点

小論文を「休止」、既存教科の配点・試験時間を拡大

<図表> は経済学部の2026年度までと2027年度の入試科目を比較したものである。2026年度入試まではA方式、B方式とも小論文が課されていたが、2027年度入試からは廃止となる。これに伴い、A方式では数学の配点が、B方式では地理歴史の配点がそれぞれ150点から200点に変更、試験時間も80分から100分に延長される。2教科入試となるため受験生から注目を集めそうだ。なお、経済学部では過去にも一度取りやめていた小論文の出題を復活した経緯があり、今回の発表でも「休止」の表現を用いて、将来の復活の可能性を含みを持たせる表現にしている。

合否判定方法についても変更がある。A方式は外国語と数学の問題の一部の合計点が一定の得点に達した受験生について、残りの問題を採点する。B方式は外国語の問題の一部が一定の得点に達した受験生について、外国語の残りの問題と地理歴史を採点する。なお、両方式とも出題範囲、基本的出題方針に変更はない。

慶應義塾大は小論文の廃止について、小論文を課すことによりはかろうとしてきた志願者の能力は、他の科目ではかかれると判断。小論文を廃止し試験科目を絞り込むことで、入学後に必要な基礎的な能力を集中的に評価できるメリットがあるとしている。

<図表> 経済学部の入試変更点

2026年度入試まで

方式	教科			
A方式	外国語	数学	小論文	
	配点	200点	150点	70点
	試験時間	100分	80分	60分
B方式	外国語	地理歴史 (日本史か世界史)	小論文	
	配点	200点	150点	70点
	試験時間	100分	80分	60分



2027年度入試

方式	教科			
A方式	外国語	数学	—	
	配点	200点	200点	—
	試験時間	100分	100分	—
B方式	外国語	地理歴史 (日本史か世界史)	—	
	配点	200点	200点	—
	試験時間	100分	100分	—

※大学公表資料より作成

② 総合政策学部・環境情報学部の入試変更点

外国語でドイツ語とフランス語を廃止

総合政策学部と環境情報学部では一般選抜で実施されている外国語のドイツ語とフランス語について、2027年度入試から出題せず、「英語」のみとする。これにより、2027年度入試以降、外国語の試験で英語以外の科目を出題するのは文学部のみとなった。その文学部も2025年度入試より中国語を廃止しており、英語以外の外国語は縮小方向で動いている。

この変更に伴い、総合型選抜「アドミッションズ・オフィスによる自由応募入試」(AO入試)では2027年度よりドイツ語とフランス語の外国語能力を多面的能力の一つになりうるものとして位置づけ、総合評価の対象とする。ドイツ語、フランス語学修者に対する選抜を残す形とした。

今回の内容は本年12月時点の変更をまとめたものであり、今後さらに情報が追加される可能性もある。最新の入試情報は下記の大学HPよりご確認ください。

◆慶應義塾大HP (学部入学案内 - 入試の変更点)

<https://www.keio.ac.jp/ja/admissions/examinations/changes/>